Blue Marble Japan

SIMI
社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ
Social Impact Management Initiative

インパクトの基本的考え方
～ダイナミックマテリアリティと企業価値～

2023年8月23日

SIMI代表理事
（株）ブルーマーブルジャパン代表取締役
今田　克司

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

自己紹介

今田　克司（Katsuji Imata)
katsuji.imata@blue-marble.co.jp

＜現職＞

（一財）社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）代表理事

（株）ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

（一財）　CSOネットワーク常務理事

＜委員等＞

- 日本評価学会副会長、研修委員長
- 休眠預金等活用法における指定活用団体である日本民間公益活動連携機構（JANPIA）評価アドバイザー
- 金融庁・GSG主催「インパクト投資に関する勉強会」委員
- 国際協力機構（JICA）事業評価外部有識者委員会委員
- UNDP SDGインパクト基準　認定トレーナー
- Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員
- B Lab （B Corp 認証を司る米国非営利団体）Regional Standards Advisory Group - Asia 委員。
- アメリカ評価学会（AEA）Social Impact Measurement ワーキンググループメンバー

＜経歴＞

1991-2000　サンフランシスコ・ベイ・エリア

カリフォルニア大学バークレー校公共政策大学院修士
米国でNPO（501c3団体）創設。日米NPO交流、市民セクター強化に尽力

2000-07　東京

CSO連絡会・ネットワーク　日米コモンアジェンダの枠組みでNGO協力推進、NGO政策環境整備のための調査、貧困をなくすNGOキャンペーン等

2007-13　ヨハネスブルク（南アフリカ）

国際NGO CIVICUS（市民社会強化のグローバル・ネットワーク）事務局次長、SDGs策定にむけたCSOインプットのコーディネート役等

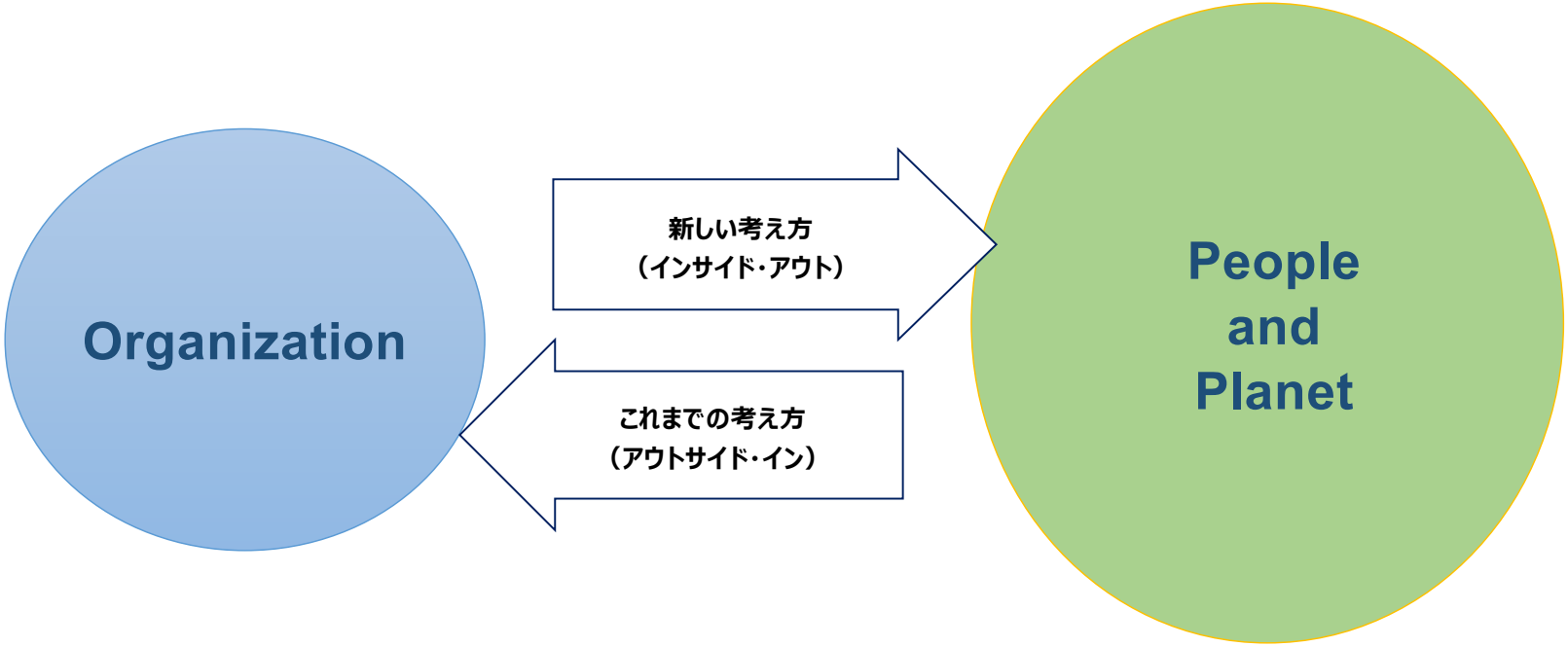
2013-現在　東京

2014-2018　日本NPOセンター常務理事
2016　SIMI創設コアメンバーの一人、2020年法人化とともに代表理事
2020　株式会社ブルー・マーブル・ジャパン設立

発表アウトライン

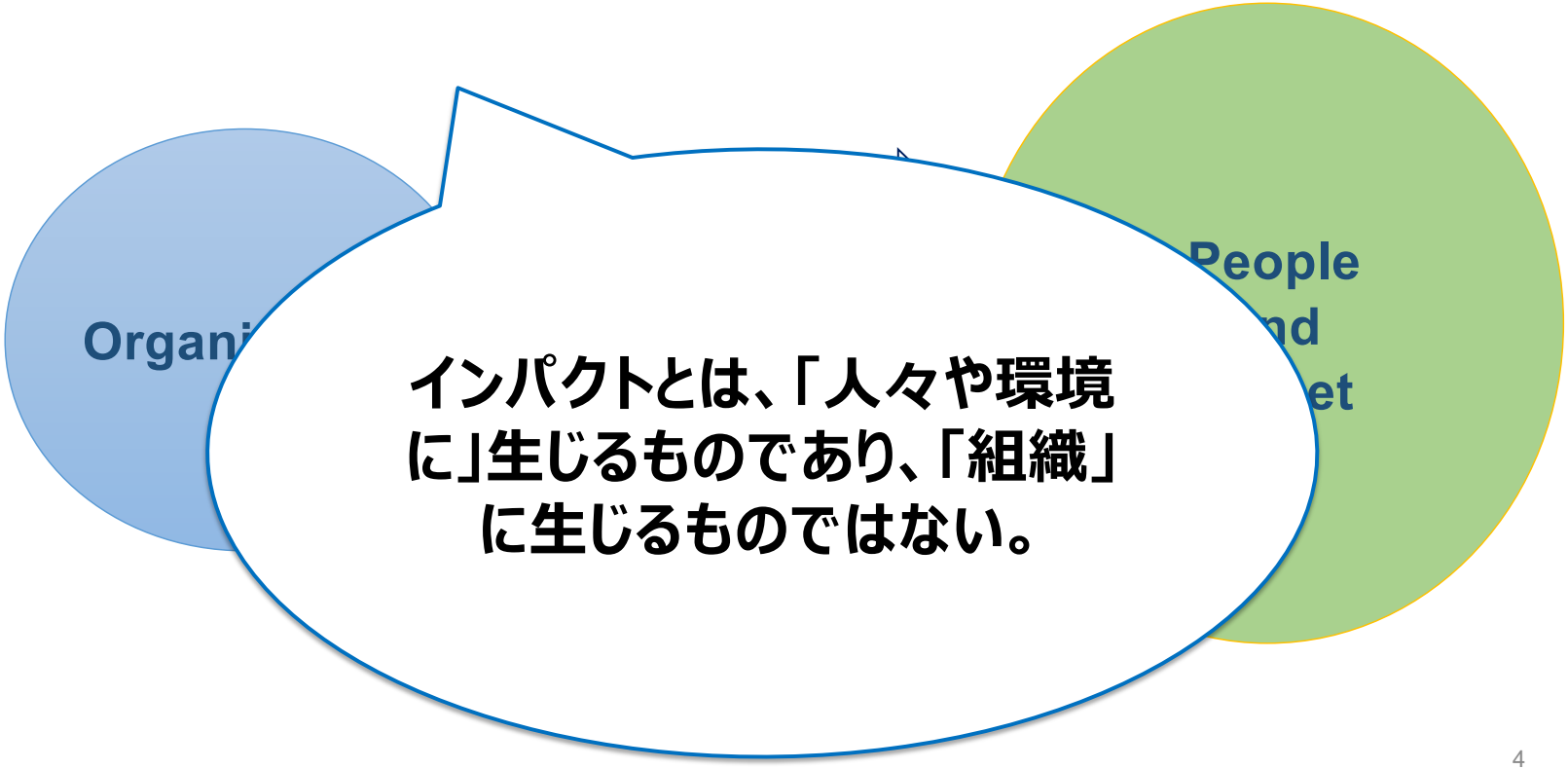
1. はじめに：アウトサイド・インとインサイド・アウト
2. いくつかの定義（インパクト、外部性、マテリアリティ、ステークホルダー）
3. ダイナミック・マテリアリティの考え方
4. まとめ
5. 【参考】評価学における「インパクト」

1. はじめに：視点の転換の必要性
（UNDP SDGインパクト基準研修資料を加工）



© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

1. はじめに：視点の転換の必要性
（UNDP SDGインパクト基準研修資料を加工）



© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

1. はじめに：ひとつの到達点？出発点？としてのSDGs

2015年に成立したSDGsの前提

このままでは世界は持続不能という危機意識

↓

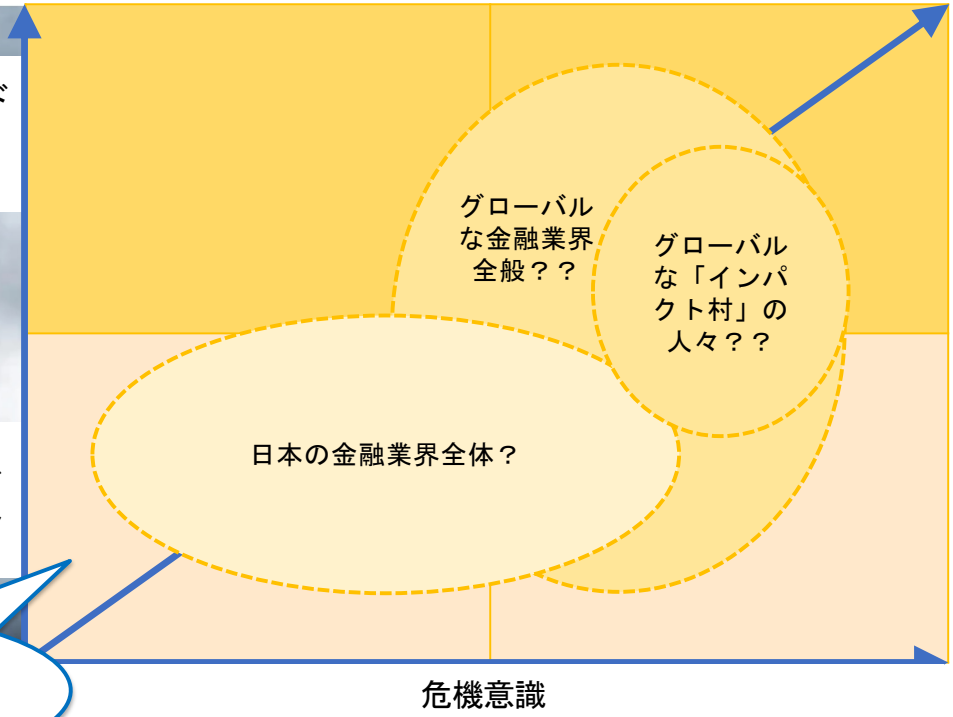
必要なのは
「変革（トランスフォーメーション）」

- SDGsが含まれている「**持続可能な開発のための2030アジェンダ**」は「我々の世界を変革する」という野心的なタイトル。
- 必要なのは、つぎはぎの修繕、改革、これまでの積み上げではなく、我々の政治経済社会の土台から問い直す「変革」

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

1. はじめに：危機感・危機意識の差？？

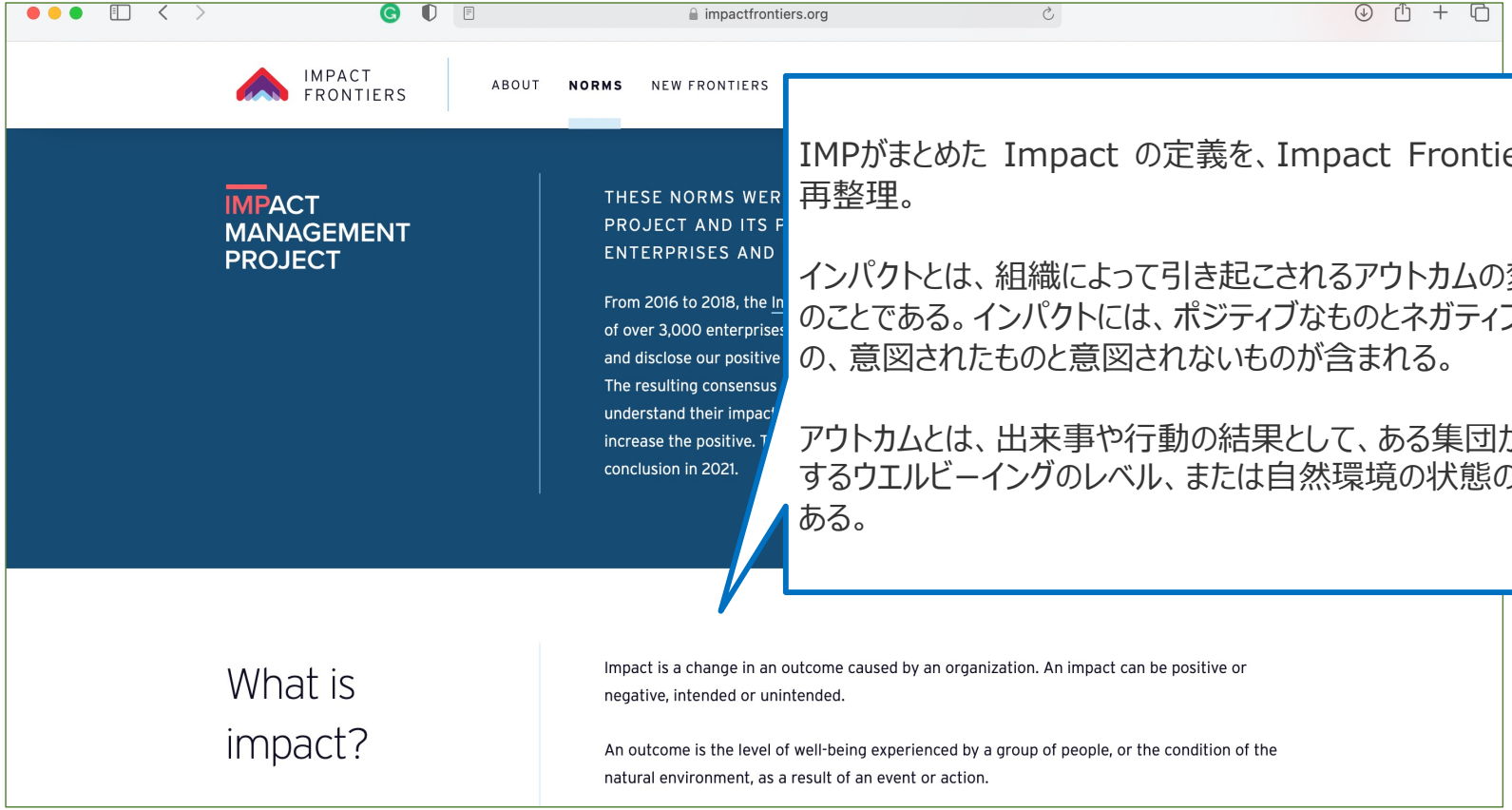
© Insurance Business



みなさんはどう
思いますか？

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

2. いくつかの定義(1)



IMPがまとめた Impact の定義を、Impact Frontiers が再整理。

インパクトとは、組織によって引き起こされるアウトカムの変化のことである。インパクトには、ポジティブなものとネガティブなもの、意図されたものと意図されないものが含まれる。

アウトカムとは、出来事や行動の結果として、ある集団が経験するウエルビーイングのレベル、または自然環境の状態のことである。

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

2. いくつかの定義(2)
（UNDP SDGインパクト基準より）

インパクト
組織の運営、サプライ／バリューチェーン、ビジネス関係における意思決定や行動により生じる人や地球が経験するウエルビーイングの諸側面の変化。インパクトには、ポジティブ（プラス）なものとネガティブ （マイナス）なもの、意図されたものと意図されないもの、直接的ものと間接的なものがある。（SDG Impact Standards Glossary、翻訳は研修教材）
すべての意思決定、行動には、意識するしないにかかわらず、測定するしないにかかわらず、インパクトがある。（SDGインパクト基準研修資料）

外部性（Externalities）
組織により引き起こされたポジティブ（プラス）またはネガティブ （マイナス）な、意図されたまたは意図されない、直接的または間接的な、人々、地域、社会、地球に対するインパクトで、市場価格（企業価値や投資家のバリュエーション）に反映されないもの。（SDG Impact Standards Glossary、翻訳は発表者）

https://sdgimpact.undp.org/assets/SDG-Impact-Standards-Glossary.pdf

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

2. いくつかの定義(3)
（UNDP SDGインパクト基準より）

インサイド・アウト思考
アウトサイド・イン思考

マテリアリティ（マテリアルなインパクト）
本基準（SDGインパクト基準）における**マテリアルなインパクト**とは、

- ステークホルダーのウエルビーイングに影響を与えるもの、
- 2030年までに（ステークホルダーの）ウェルビーイングを最大化し、サステナビリティとSDGsを達成するために、ステークホルダーの利益のために（acting in the interest of）行動する事業体の意思決定に影響を与えるもので、
- 強く、強靭で、サステナブルな事業体は持続可能な開発とSDGsに積極的に貢献する能力が高いという理解のもと、（事業体は）自身の価値創造にとって最も重要なサステナビリティ・リスクと機会を考慮し、
- どのインパクトが重要か（マテリアルか）を判断するための正式な評価プロセスを持つ（それは、サステナビリティとSDGs達成への（自身の）貢献を最適化し、人と地球のウェルビーイングを最大化するために、どのインパクトを優先し管理すべきかを特定するのに役立つ）。

（SDG Impact Standards Glossary、翻訳は発表者）

https://sdgimpact.undp.org/assets/SDG-Impact-Standards-Glossary.pdf

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

2. いくつかの定義(4)
（UNDP SDGインパクト基準より）

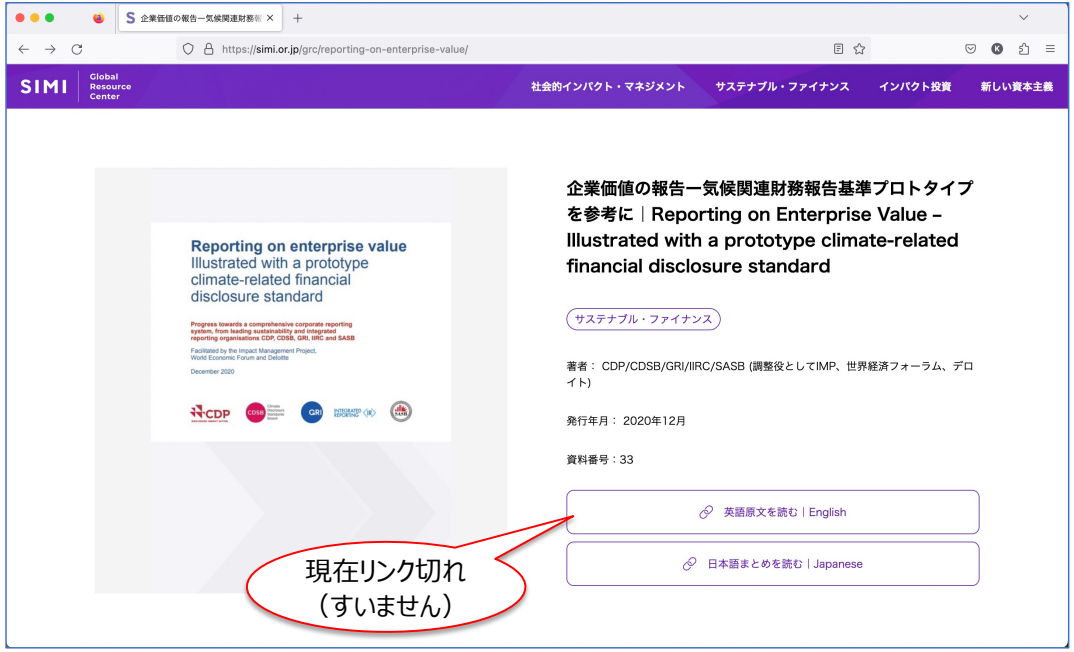
ステークホルダー
意図された・されない、直接・間接的にかかわらず、組織の行動や意思決定（行動しないことも意思決定）により影響を受けるモノ（人々や地球）のことで、以下を含む。
1. 権利保持者（略）(*)
2. 顧客（略）
3. 労働者（や他の働き手）（略）
4. 地域コミュニテイ（略）
5. サプライヤーや販売業者・代理店（略）
6. 地球（略）
（Impact Management Project より改変）
（SDG Impact Standards Glossary、翻訳は発表者）

(*) 権利保持者（rights holders または human-rights holders）とは、権利ベースのアプローチ（Rights-Based Approach）の用語で、義務履行者（duty bearers）の対の用語として捉えられている。

https://sdgimpact.undp.org/assets/SDG-Impact-Standards-Glossary.pdf

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

3. ダイナミック・マテリアリティの考え方(1)



https://simi.or.jp/grc/reporting-on-enterprise-value/

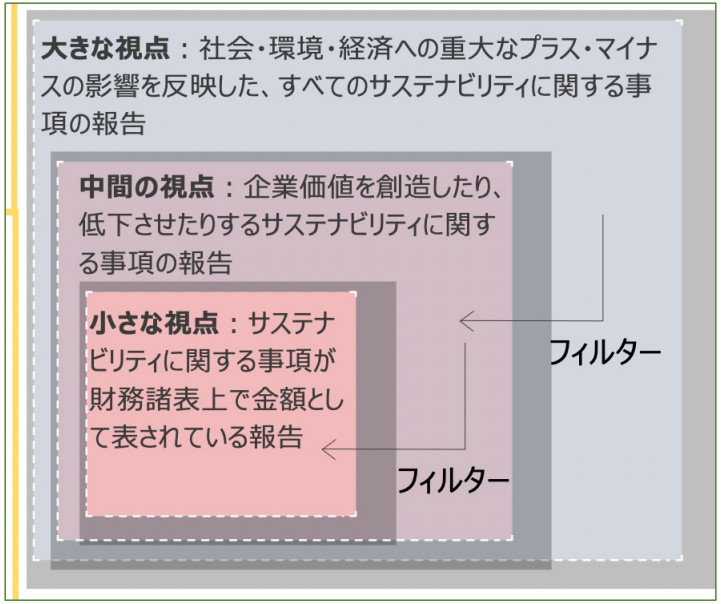
５年間の時限プロジェクトとして2016年に始まったIMP(Impact Management Project)は、インパクトの５つの基本要素（Five dimensions of impact）などをまとめ、インパクトに関する基本的な共通理解形成で功績を残した後、最後の（？）取り組みとして、インパクトと企業価値の関係性の考察に乗り出し、プロトタイプとして気候変動におけるサステナビリティ報告を取り上げた。

←その中間的成果物が2020年12月に出されたこちら。この取り組みは、一部、ISSB（国際サステナビリティ基準審議会）へ連なる動きにつながっている。

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

3. ダイナミック・マテリアリティの考え方(2)

2020年当時、下記の３つの視点からのサステナビリティ報告の必要性・重要性は、読み手が誰によるか（何を求めているか）によって規定されると整理された。

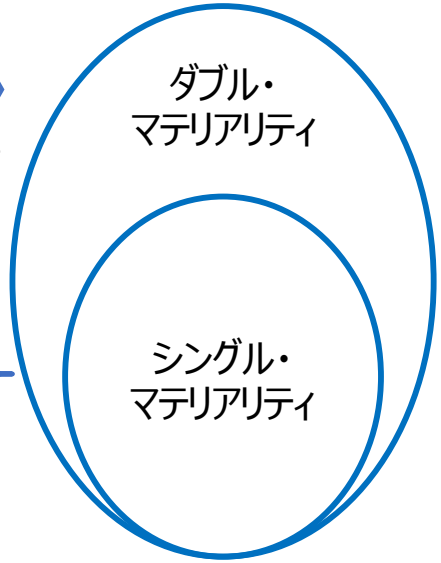


https://simi.or.jp/grc/reporting-on-enterprise-value/
日本語要約３ページより

大きな視点
「サステナビリティレポート」
持続可能な開発に対する企業の貢献を理解したい幅広い利用者向け

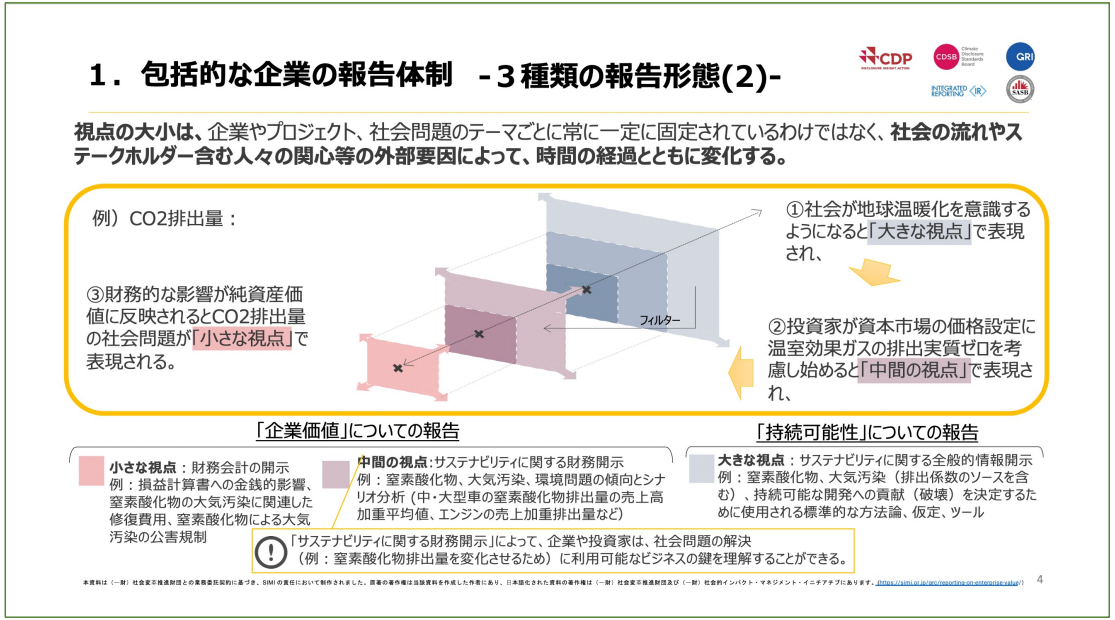
中間の視点
「サステナビリティ関連の財務情報開示」
企業価値を理解したい特定の利用者向け
（特に金融資本の提供者）

小さな視点＝「財務会計」



© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

3. ダイナミック・マテリアリティの考え方(3)



https://simi.or.jp/grc/reporting-on-enterprise-value/
日本語要約４ページより

当時、シングル vs. ダブルマテリアリティの議論が巻き起こる中で、本共同レポート含め、その議論の不毛性を説く論が目立つようになっていた。なぜならば、企業価値への反映は、時とともに変化するから。これを捉えて、**ダイナミックマテリアリティ**の考え方が普及につながっていった。

本レポートにおいては、**ダイナミックマテリアリティ**については次のよう記載されている（７ページ）
『サステナビリティ要素は時間の経過とともに３つのボックス（視点）間を動き回る。例えば、CO2排出量は、社会がより温暖化に敏感になれば「大きな視点」の一部となる。さらに、投資家がネットゼロへのトランジションを資本市場におけるプライシングの要素とするようになれば「中間の視点」の一部となり、取り組みの財務的結果が純資産額に反映するようになれば「小さな視点」の一部となる。』

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

4. まとめ

ここ数年

- 2020年頃、サステナビリティ開示についての具体的仕組みづくりが進む中で、シングル vs ダブル・マテリアリティの議論が巻き起こり（再燃し？）、ダイナミック・マテリアリティの概念が導出された。
- とはいえ、ダイナミック・マテリアリティの議論も、つまるところサステナビリティ課題への取り組みがいかに企業価値に反映されるかという、「アウトサイド・イン」の考え方にとどまっていた。
- 一方、2021-22年、IMPの遺した規範体系をSDGインパクト基準や The GIIN (Global Impact Investing Network) 、IMPの後継組織である Impact Frontiers、Impact Management Platformらが継承し、インパクトの概念や実践の普及に尽力している。

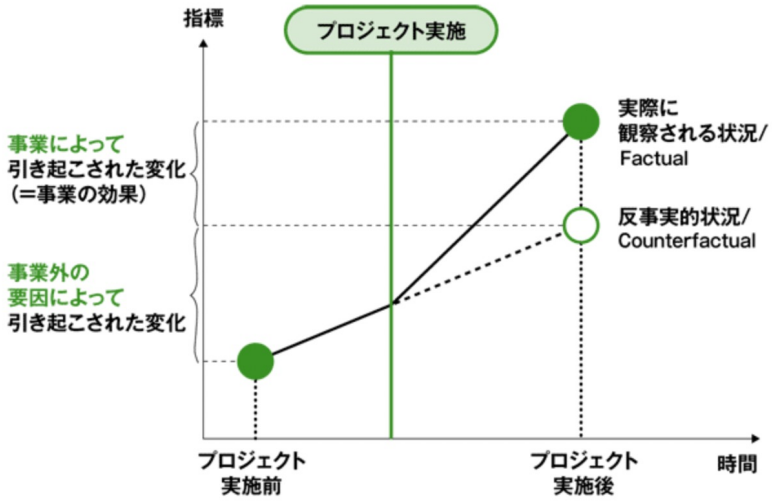
現在そして今後

- 加えて、PRI（IFSI=Investing for Sustainable Impact の議論など）含め、サステナブル・ファイナンスの中心でインパクトを中核課題として取り上げようとする動きがここ1-2年で急速に高まっている。
- SDGインパクト基準においては、インパクト概念の中心に「インサイド・アウト」の考えがあることを整理し、大きな視点の転換を企業、金融セクター等に対して働きかけている（マテリアリティの考え方もこの視点の転換によって変化し、「企業にとっての重要課題」から「人々・地球にとっての重要課題」へと変質する）。
- 本WGのテーマであるインパクトと企業価値の関係を見る場合、インパクトの追求が具体的に企業価値へと変換されるミッシングピースを考察・構築していくことが肝要と思われるが、そのミッシング・ピース構築に対する自身の姿勢（「作る側に立つ」 vs 「作られるのを待つ」）を意識することがまずは必要か？？

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

5.【参考】評価学におけるインパクトの考え方

インパクト評価概念図：
実際に観察される状況と反事実的状況との比較



JICAの「インパクト評価」のサイトより
https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/impact.html

評価学における「インパクト」とは、介入（事業）に起因する変化から、介入がなかった場合の変化（反事実）を差し引いたもののこと。よって、「インパクト評価（impact evaluation）」とは、介入の因果仮説をもとに、反事実との差分を測定し、因果仮説の確からしさを検証する評価方法。

一方、投資の世界で用いられている＜インパクト評価＞は、もともと、(social) impact measurement の訳語で「インパクト評価」とは異なるものだが、IMM（インパクト測定・マネジメント）の普及にともない、介入による変化の立証（＝すなわち評価学における「インパクト」）を追求する試みも増大している。

ご参考（宣伝）
「インパクト評価」を専門的に扱うメトリクスワーク・コンサルタンツとIMM（インパクト測定・マネジメント）の専門性をもつブルーマーブルジャパンでは、11/1（前半）と 11/8（後半）に『投資家のための“インパクト評価”研修～課題解決に貢献する投資家のための評価トレーニング～』を実施します。お申し込みは以下より。
https://peatix.com/event/3649387/view

© 2023 Blue Marble Japan / Social Impact Management Initiative

ご静聴ありがとうございました。